

ADATARARA

あだたら



特集1

「ボランティア経験を
日本の教育現場へ！」

平成26年度
第1次隊 平山純子さん
(青年海外協力隊) ベナン
[須賀川市出身]

特集2 現地レポート

「世界で活躍する
JICAボランティア」

平成28年度
第1次隊 齋藤志織さん
(青年海外協力隊) ニカラグア
[いわき市出身]

VOICE JICA 応援団

からおや きっしや
空桶屋 吉祥 本田敏之さん

イベントレポート

ふくしま青年海外協力隊の会
研修会&新年会開催!



EVENT

イベント

ふくしま青年海外
協力隊の会

研修会 & 新年会開催！



福島県内から多くのOVが集まりました。



荒 証文 OV

2018年1月14日(日)、郡山市で「ふくしま青年海外協力隊の会」主催の研修会と新年会を開催しました。

福島県内の各地から多くのJICAボランティア経験者(OV)が集まり、世代を越えて懇親を深めました。

昨年、瑞宝小綬章を受賞した荒証文OV(S44-2/バスケットボール/マレーシア)による「協力隊経験の社会還元」について研修会を実施しました。荒OVは「OV会に所属し集団で活動するとインパクトもありますが、一人一人がOVとしてそれぞれの所属先でJICAボランティア経験者としての活動を役立てていく、そしていろんな人を巻き込むということが大切ではないか」と話しました。

また荒OVからはふくしま青年海外協力隊の会(OV会)発足の経緯や国際理解の必要性を身近に感じてもらうためにOV会と福島県国際課が実施している「地球体験キャラバン」について等、なかなか聞くことのできない当時の貴重なお話を聞くことができました。

引き続きJICA二本松は、ふくしま青年海外協力隊の会の活動をサポートしていきます。

課外特別講座「茶道のいろは」実施



茶道家元 伊藤宗正 先生



多くの訓練生が「お茶の歴史」に興味を持ち、先生に質問をしていた

2017年11月27日(月)、JICA二本松訓練所で課外特別講座「茶道のいろは」を実施しました。

当日は2017年度3次隊訓練生やスタッフ等30名近くが集まりました。講師は二本松市でお茶の先生をしている茶道家元 伊藤宗正(いとうむねまさ)先生です。伊藤先生は安達高校、安達東高校で茶道を指導しています。今回はお茶の歴史や雑学、訓練生自身が実際にお茶を点て礼儀作法等を学びました。伊藤先生は「今回の講義を通して、派遣される国の人に対する礼儀等に活かしてほしい。」と参加した訓練生に伝えました。

イベント情報

- 3月15日(木) …………… 2017年度4次隊 青年海外協力隊 修了式
- 4月2日(月)～5月1日(火)… 2018年度 JICAボランティア春募集受付期間
- 4月6日(金) …………… 2018年度1次隊 JICAボランティア 入所式
- 5月9日(水) …………… 2018年度1次隊 シニア海外ボランティア 修了式
- 6月13日(水) …………… 2018年度1次隊 青年海外協力隊 修了式

特集1

ボランティア経験を 日本の教育現場へ！



平成26年度第1次隊
派遣国:ベナン 職種:青少年活動
平山純子さん(須賀川市)



子どもたちの手形でベナン国旗を作成

平山純子さんは現職教員特別参加制度を利用して西アフリカに位置するベナン共和国で2014年から2016年までの2年間、青年海外協力隊員として活動しました。ベナンでは青少年活動隊員として教育委員会に派遣されました。

海外と英語への憧れ

私が初めて外国の人に接したのは、中学生の時に英語の授業で出会ったALTでした。話をするのが楽しくて、英語がどんどん好きになりました。そのころから漠然と「いつか英語を使っていろいろな国の人たちとかかわりを持ちたい。」と思うようになりました。そして高校や大学へ進学する際も英語を軸に決めていました。

大学では英文科に進み、大学のプログラムでイギリスに短期留学することもできました。

将来は英語を使った仕事をしたいと考えていましたが、大学4年生になっても授業がたくさんあり、なかなか思うように動けませんでした。大学では教育課程も取っていたので、大学卒業後は中学校の英語講師として働いていましたが、もっと語学を勉強したいと思いワーキングホリデーでニュージーランドとオーストラリアで英語を磨きました。

ワーキングホリデーを終え、日本に帰国してから就職活動を始めました。

養護学校で講師の募集をしており、無事に養護の先生として働き始めることができました。一緒に働いている先生方が大変素晴らしい方ばかりで、教育の面白さを知ることができました。ただ私は養護教諭としての資格を持っていなかったため、養護学校で働きながら通信とスクーリングで免許を取得しました。

中学校の時に出会った英語のおかげで高校、大学では英語を深く学ぶことができましたし、海外で生の英語に触れることもできました。そして養護学校の先生として働く中で「もっと自分にできることはあるのではないか?」と思いJICAボランティアに参加しました。JICAボランティアを知ったのは大学生の頃です。しかし、自分が他の国の人に教えられるような知識や技術はないと思い、参加を躊躇していました(今となれば、『行きたい』と思う気持ちが一番大事だったなあと感じますが)。教員となって、現職で参加された先生が周りに何人かいて、お話を伺ったことで、参加したい気持ちが強くなり、応募しました。現職で参加することで、帰国後、現地で感じたことや学んだことを子どもたちに伝えられると感じました。



ベナンの子どもたちと①



ベナンの子どもたちと②



手洗いの歌を生徒と一緒に歌った

私は西アフリカのベナンに青少年活動隊員として派遣されました。配属先は首都ポルトノヴォの教育委員会です。

私に与えられた要請内容はベナンで各学校で働いている人たちに日本の教育方法を伝えることや学校保健、保健衛生の知識を先生や子供たちに指導することでした。

日本の学校では水道などの設備が整っており、当たり前のように「衛生」について学ぶ機会がありますが、環境の全く違うベナンでは日本のように水道やせっけんがあるわけでもなく井戸水を汲んで生活している人たちもいます。その中でゴミの問題や手を洗うこと、保健衛生の必要性等の啓蒙活動を行っていました。

私が派遣されている間に、学校同士で衛生について競い合うコンクールが開催されました。

コンクールはすべての学校が参加できるのではなく、選ばれた学校のみが参加できる仕組みとなっていました。ベナン人の同僚とコンクールに参加している学校を回り校長先生や他の先生方にアドバイスをし、その中でどの学校が一番改善されたか評価する仕組みになっています。しかしコンクールに参加できない学校ももちろんあり、保健や衛生への理解が浸透しにくい現状もありました。

選ばれた学校もあれば選ばれなかった学校もありますし、公立校と私立校といった環境で、どうすれば「衛生」について平等に広く伝わっていくか悩みました。また学校保健は、授業ではないため主要教科のように重要視されておらず強制して学ばせることができません。

そのため選ばれた学校のみが参加できるコンクールを廃止し、より多くの学校、生徒が衛生について学ぶことができるようにしました。

まずは自分の住んでいる町の学校で手洗いの歌を作って広めたり、興味を持ってくれた校長先生の学校で授業も行いました。直接学校に足を運ばないとわからないことばかりでした。

現在、私は特別支援学校の中学部に勤務しています。言葉でコミュニケーションを取ることが難しい生徒もたくさんいます。自分が派遣された国は、何十もの現地語

があり、第二言語のフランス語を話せない人もたくさんいました。自分のフランス語も不十分で、相手が何を言っているのか、初めはほとんど分かりませんでした。その中で生活を続け、徐々に、言葉が聞き取れるようになったり、相手の表情や身振りで様子を理解したり、繰り返し使われる現地語を覚えたりしながら周りとのコミュニケーションが取れるようになりました。この経験のおかげで、生徒の気持ちに寄りそうことができるようになったと感じます。現地の人と話す際、初めは、相手の表情や声のトーンから、怒っているのか、嬉しいのか、質問しているのかなどを読み取って、『もっとゆっくり話して欲しい』『もう一回言ってくれないかな』『言っていることは分かるけど、どう言ったらいいか分からない』などと感じたことがあります。『上手に話せないから、話したくない』『相手に伝わらなかつたら恥ずかしい』など思ったこともあります。この時の自分の状況が、同じように生徒にも起きているのかもしれないと思って、生徒と接しています。言葉で返事ができなくても、こちらの言っていることは、分かっているかもしれない。教師の身振りや声のトーン、表情で、何かを感じているかもしれない。ゆっくり、繰り返し伝えたら、もっと分かりやすいかもしれない、などと思いながら生徒と接しています。

現職教員特別参加制度とは？

国立、公立学校および私立学校の教員が身分を保持したまま青年海外協力隊または日系社会青年ボランティアへ参加するための制度で、毎年春募集のみに募集します。派遣期間と訓練をあわせて2年間(派遣前訓練70日間程度、派遣期間1年9ヶ月)です。応募の翌年4月から訓練開始となり、2年後の3月下旬に帰国し、4月1日から復職が可能となります。

「現職教員特別参加制度」で検索していただければ応募資格や募集対象職種、派遣対象地域等ご確認いただけます！

特集2

世界で活躍する JICA ボランティア

～現職教員にしかできない国際協力のカタチ～



研修会に参加した先生たちとの一枚



先生への研修会を実施しました



小学校教育隊員としての活動の様子



平成28年度第1次隊
派遣国:ニカラグア
職種:小学校教育
齋藤 志織さん
(いわき市出身)

ニカラグアという国を聞いたことがありますか? ニカラグアは、中米に位置し、太平洋とカリブ海に挟まれています。ラテンアメリカの文化をもち、人々はみな陽気で愛情深く、活気にあふれた国です。

私はこのニカラグアで先生として活動をしています。ここに来る前は、日本の小学校で教えていました。そんな私がなぜニカラグアへ? なぜなら、海外の様子を日本の子どもたちに伝えるということは、教員にしかできない国際協力の一つの形だと考えたからです。世界にはたくさんの国があり、たくさんの人がいて、その数だけ違う文化があります。日本の子どもたちにもそういった海外の国々に目を向け、関心をもってほしい! それにはまず、先生自身が海外を見て、感じて、知ってこなくては! そう思い、協力隊の門をたたきました。

ニカラグアの小学校で私は、先生方に算数の研修会を行ったり、子ども達のサポートをしたりしています。また、今年はほかのボランティアとも協力して、教育省とともにニカラグア全土の指導主事の先生を対象に算数の研修会を設けることまでできました。

ニカラグアではまだまだ学校にいけないうちもたくさんいるのが現状です。また、家庭の事情で途中から学校に来なくなる子どもいます。子どもたちにとって、学校が楽しい場所でありますように。そして、この学ぶ機会にしっかりと学んでほしい。これがここで活動していて一番に思うことです。ニカラグアの子どもたちも、日本の子どもたちと同じようにしっかりと理解できたときは、「分かった!」と目をキラキラさせます。私の活動は、その瞬間のためにあります。

今では残りの任期もわずかとなってきました。学校へ行くと毎朝、子どもたちがかけよって来ては、「しおり先生!おはよう!!」「ねえ今日は私の教室に来るの?」「休み時間になったら遊ぼう!」とひっきりなしに聞いてきます。先生方も「おはよう、元気?」と声をかけてくれます。日本から来た先生と、ニカラグアの先生と一緒に子どもの指導に励む。なんだかちょっと不思議だけど、とっても素敵なことだと思いませんか?



ニカラグアの子どもたち



ニカラグアの子どもたちとの一枚



VOICE

ボイス

～JICA二本松応援団～

このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援して下さっている方にJICAボランティアとのエピソードや期待・エールをインタビューします。

今回は、JICA二本松訓練生がお世話になっている岳温泉の空桶屋吉祥の本田敏之さんにお話を伺いました! 思い出に残る訓練生やJICAボランティア訓練生に期待することをインタビューしました!



ボトルには先輩訓練生から、次の訓練生(2017年度4次隊)に宛てたメッセージ「頑張れ!輝く未来はそこにある!!」が書かれている。



店の外観の写真



空桶屋 吉祥 本田敏之さん

空桶屋 吉祥(からおけや きっしょう)はいつから岳温泉でお店を開いていますか?

空桶屋 吉祥は2010年から始めました。その後、東日本大震災を経験して現在までお店を続けています。

この店には全国各地からやってくる観光客の他にもJICA二本松訓練所の訓練生や芸能人も来たことがあります。

印象に残っている訓練生はいますか?

私の店にはシニア海外ボランティアの訓練生がよく通っていました。ヒマラヤ大通りと違って裏通りの静かな場所にあるのでシニア層の方に好まれる店だったのかもしれませんが。そして休みの日は若い訓練生がお店に来て歌を歌ったりお酒を飲んだりとても賑やかでした。ここは空桶屋ですので、若い訓練生もシニアの訓練生も世代は違いますが、歌を通して交流を深めています。世代が違うのでお互いの歌を聴いてもわからないことがあるみたいですが、それを楽しんでいるようです。

そして私の店の面白いところは、これまでJICA二本松訓練所で訓練を経験した人たちが代々つながっているところです。訓練生が次の訓練生のために、ボトルを残してそれが各隊次毎に引き継がれています。

お酒にもいろいろ種類がありますが、次の訓練生のためにわざわざ良いお酒を残してくれています。

今回の取材でこのボトルをつないでいったJICAボランティアの皆さんが「おれたちがつないでいったボトルがまだ引き継がれている。」というのを知ってほしいですね。

私の店は空桶屋ということで店の環境と設備に大変力を入れています。プロ歌手でさえ認めるほどで、以前JICA二本松訓練所の訓練生で音楽隊員の方がいましたが、その方もお店の環境に驚いていましたし、そこに気づいてもらえた時はとても嬉しかったです。

ここでは訓練生と一般のお客さんが交流を深められる唯一の場だと考えています。ここで出会った訓練生と観光客の方は今でも関係が続いていますし、おばあちゃんと一緒にお店に来たお孫さんが歌を歌えば、訓練生は楽しく盛り上げてくれていました。そのお孫さんは毎週土曜日にお店に来ること、訓練生に会えることを楽しみにしていました。

JICAボランティア訓練生にはどのようなことを期待していますか?

訓練生には岳温泉の環境を楽しんでほしいと考えています。青年海外協隊訓練生は2ヶ月間、シニア海外ボランティア訓練生は1ヶ月間、温泉街のある場所で訓練を行います。

長い人生の中で、このような環境に長い間いることもなかなかないと思います。だからこそ名物の馬刺しや豆腐、各旅館の温泉や岳温泉の人たちとの交流も楽しんでほしいし、ちょっと足を延ばせば、チーズケーキの美味しいお店や夏になると牧場のミルクで作ったソフトクリーム等もあります。

訓練生にはここでしかできないことを楽しんで、訓練を精一杯頑張してほしいと思っています。

そして岳温泉にはJICA二本松訓練所の訓練生以外にも全国各地から観光客がたくさんやってきます。この店ではそんな観光客と訓練生が交流を深められる場でありたいと考えています。

本田さんインタビューに答えていただきありがとうございました!
これからも訓練生の交流の場としてお世話になります!

質問コーナー

第8回目

あなたに とって 〇〇とは?

このコーナーでは、派遣中の隊員や帰国後のOV、JICA二本松のスタッフなど、JICAボランティアとして活躍している隊員や帰国後にJICAで得た経験を通して社会で活躍している方たちにさまざまな質問をしてみました!! 第8回目となる今回のテーマは、「あなたが派遣国から持ち帰った物は?」です。



「セネガルスタイルカバン」です。

私はセネガルからアフリカ布で作られたカバンやポーチを持ち帰りました。「Kebe sac」と呼ばれ、セネガルの女性団体が手作りしているものです。日本の団体とも繋がりがりがあり、アフリカフェスタなどにも出品されています。アフリカらしい色鮮やかなカバンやポーチは、お土産にも大変好評です。今でも愛用しているお気に入りのものです。

「音楽を通して国際交流!」です。

はじめまして! 僕はモザンビークという南アフリカの国で体育の先生をしてきました。そんな僕がモザンビークから持ち帰ったものは現地の楽器です! 現地語や音楽を通して遊んでいる日本人の姿を、モザンビークへ届けたいと思っています!

最後にですがぜひ皆さん、カニマンボという言葉覚えてください! 現地語でありがとうという意味です!



「売るほど持ってきたタイス」です。

私が東ティモールから持ち帰ったものは「タイス」です。伝統的な織物です。東ティモールでは歓迎会、送別会、お祝いごとなどにタイスをプレゼントしたり、身につける習慣があります。地方によって柄が違っているので、各県でタイスを見るのもティモール旅の醍醐味です。隊員もタイスで洋服やカバンを作って式典に参加しています。





福島にゆかりのある

JICAボランティア

2017年度4次隊

※①派遣地域 ②職種 ③出身地



青年海外協力隊
鈴木麻美さん

- ①モザンビーク
- ②ソーシャルワーカー
- ③西郷村



自分の夢に向かって、生まれ育った福島の地で訓練出来るという幸運に恵まれました。このチャンスを大切にしたいです。そして訓練所では、これまでの自分の人生の振り返りとともに、派遣予定の任地国で自分の学んできたことや体験してきたことを最大限活かせるような協調性や語学力を培う機会を得たいと考えています。あともう一つ!いつも私自身が感じている、福島県民の“あたたかさ”を、他の訓練生の方達に感じてもらえたら嬉しいです!



青年海外協力隊
横川覚志さん

- ①ケニア
- ②林業・森林保全
- ③西郷村



ケニアの森林は、日本の森林と異なっているかもしれない。しかし目指すべき森林の姿というのは、ケニアも日本もあまり変わらないのではないだろうか?そのためにも、私の活動を通し、これからの森林のあり方について現地の方々が考えるきっかけの一助になればと思っています。



青年海外協力隊
渡辺里保さん

- ①マレーシア
- ②日本語教育
- ③郡山市



小学生の頃から夢だった日本語教師としての第一歩となるマレーシアでは、任地の人々の慣習や価値観を尊重しながら日本の文化や言葉を伝えていきます。人と人との繋がりを大切にしながら積極的な活動を行い、数多くのことを学び吸収していきたいと思っています。



青年海外協力隊
高根光さん

- ①ケニア
- ②コミュニティ開発
- ③二本松市



世界の人々の生きる力と悲しみの根源を知りたくて、気がつけば協力隊に応募していました。東北がくれた強さと優しさで現地の人々に真摯に向き合い、より良い生活が送れるよう尽力したいです。生まれた場所を離れ、新しい世界へ飛び込めます。

福島県出身ボランティア

市町村別 派遣中隊員数



2017年12月31日現在
合計派遣中:29名 累計:749名

| | | | | | | | |
|--------------|----|----|-----|---------------|---|----|----|
| 青年海外協力隊 | | | | シニア海外ボランティア | | | |
| 派遣中 | 26 | 累計 | 684 | 派遣中 | 2 | 累計 | 49 |
| 日系社会青年ボランティア | | | | 日系社会シニアボランティア | | | |
| 派遣中 | 0 | 累計 | 10 | 派遣中 | 1 | 累計 | 6 |

悩みはすべてここで解決!! なんでも相談窓口

JICA二本松訓練所HPでは、JICAボランティアに関する疑問や相談、募集に関する悩み、そしてJICA事業として行っている草の根技術協力や青年研修など、JICAに関わる全ての相談を受け付けています。どんな些細なことでも担当スタッフが丁寧に対応致します!

ぜひ一度ご相談ください!

JICA二本松 なんでも相談窓口



公式SNS、ラジオ番組のご案内

JICA二本松 公式Facebook



青年海外協力隊の訓練の様子をのぞいてみよう!!

毎日、更新中!

<https://www.facebook.com/jicantc>

ふくしまFM

キミノチカラ、海を越えて
~青年海外協力隊の道~



世界各国で活躍した隊員をゲストに迎え、参加の動機から任地での活動、帰国後のお話を2週に渡ってたっぷり聞かれます。

毎週土曜 / 8:30~8:55

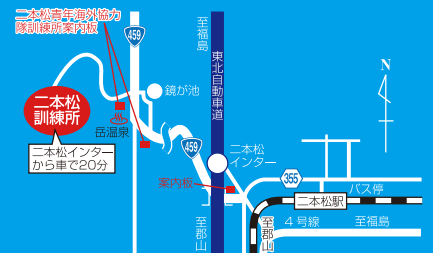
FM Mot.Com

世界も、自分も、変えるラジオ



二本松訓練所の訓練生がつくる番組です。熱い想いが詰まった60分!

第2木曜 / 13:00~14:00
(再放送:第3木曜/13:00~14:00)



独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
Tel. 0243-24-3200 Fax. 0243-24-3214

●本誌に関するお問い合わせ
JICA福島デスク 担当:重(ぼし) Tel.024-524-1315 Fax:024-524-8308
〒960-8103 福島市舟場町2-1 (公財)福島県国際交流協会内